

ある夜、ロシアの文学の香りと名づけた部屋のテーブルの引き出しを久しぶりに開けました。初めてサンクトペテルブルグに行った時、ドストエフスキー博物館にてロシアの文学の香りに魅せられ、帰国後に同じ香りがする部屋を作りたく、テーブルと椅子を探し続けたのです。ロシアのように木が豊富に使われている家具は日本にはありませんでしたので、この部屋はなかなか文章が書けずにいました。最近、再び、椅子を購入し、ロシアの文学の香りの部屋で文章を書いてみたたく備えたのです。そのテーブルの引き出しに入っていた封筒を開けると、何と岩手県の宮古にあります浄土ヶ浜にて写る私の姿であり宮古駅前に立つ私の姿の写真でした。何歳の頃かと思い出します。先生にお会いした頃か、いつ頃かと過去を久しぶりに辿りました。すると当時の自分の苦しみ、不安も手に取るように思い出されてくるのです。同時に今は全く不安も苦しみもない人生を生きていることの幸せ、感謝に震えました。

生きる意味を見出たく、色々な所を訪ねてきました。10代の頃に書いた詩集「麗花」には京都へ頻繁に行った時の詩がたくさん掲載されています。思い悩んでいた頃、三浦綾子さんの著書「塩狩峠」を読み、感動し、その現場に立ってみたく北海道の塩狩峠まで訪ねました。三浦綾子さんの小説の舞台になっている北海道は北の果てまで全土を歩きました。いつの頃からか私の友人は岩手県出身の人が増えました。いつも NPO 高麗東北センターでの「本音で生きて下さい」講演会にてお話しさせて戴いていますが、先生にお会いできる前、体が動くうちに北の大地へ行きたい気持ちで友人と共に向かったのです。車に乗せてくれた友人、家に泊めてくれた友人2人共、偶然岩手県の人でした。市内を流れる北上川の畔を歩きました。冬の薄暗い日差しの中を冷たい風に吹かれ、川辺に立ち、人生を考えました。残り少ない人生とわかっていました。余命は短いことを感じ、生きている間に本当のことだけはわかりたい気持ちで一杯でした。北上川の畔に光を見ました。その光はどこまでも澄んで透明な輝きを放っていました。とても愛しく、懐かしい光を見、胸の内から生まれた言葉は「私は生きていく」でした。余命短い私は、「生きていく」と生まれた言葉に希望の光が胸に灯りました。この経験はずっと胸にあり続け、忘れることができませんでした。いだきしん先生に出会った時、このことを先生にお話しさせて戴きました。先生は自分の生命の光を見たのだね、とおっしゃいました。私は意味はわからずともこのことをお聞きした瞬間、涙がこみ上げ、目の前にいらっしゃる先生のお顔が霞んで見えなかった瞬間まで今尚覚えています。この光を見る経験があったので、先生に出会えるまで生き長らえることができたのだと生命でわかりました。その後、生まれつきの運命を解放され、母の胎内に発生した瞬間の光を取り戻す経験をさせて戴きました。私は真の光、真の自分を表す光と受け止めている光です。余命短い時に真の自分を表す光を見たので、生命生き長らえることができたのだとわかり、涙よりありませんでした。病に苦しむ時でしたが、生命の要求に従い北の大地へと向かったので、先生に出会えるまで生き長らえることができたことに生命拾いしたと胸撫で下ろします。友人の一人は宮古出身の人でしたので、浄土ヶ浜も行く機会がありました。まさか未来に、再びこの地に来ることがあるとは想像すらできませんでした。



浄土ヶ浜にて



1998年 撮影/いだきしん

私の悪口ばかりを言う親戚に胸が裂かれる程の悲しみと怒りを感じました。母が亡くなり、悲しみの淵にある私を助けるどころか地の底に陥れる非情さに「あなた達は人間なのか」と問い正したい衝動に駆られながらも、跡取りの兄を気遣い、心の中で「ここにいる人とこれから共に生きることはない」と生まれた言葉と共に、別れを告げました。故に父の四十九日の法要には参加せずに盛岡の講演会に来たのです。盛岡に着くと、姉から連絡が入り、次男が脳梗塞で倒れたとの知らせを受け、目の前が真っ暗になりました。急いで東京におられた先生に連絡をさせて戴きました。兄の頭の中にある黒い塊を受けて下さり、その後、兄は急変し、生命の危機を脱出しました。忘れられない盛岡の講演会となりました。その後、盛岡で合流した先生は浄土ヶ浜に連れて行って下さいました。懐かしい浄土ヶ浜に再び行く事が叶い、とても嬉しかったです。先生はそのまま一般道を南下し、釜石や大船渡、陸前高田まで夜の道を車で走りました。あま

りに暗い冬の夜に驚き、この地に生きる人は生涯先生の存在を知る事なく人生を終えてしまうのかと考えると涙が溢れてならないのでした。私はせめて「本音で生きて下さい」の本を車に積んでこの地に生きる人に先生の存在をお伝えしたい気持ちが生まれました。帰京し、すぐに本をたくさん積める戦車のような頑丈な車を購入しました。この事を思い出す風が吹いた日の夜の当時のカフェ哲、現在のカフェ高麗屋のサロンにて当時のことを語りました。翌日に東日本大震災が起こったのです。皮肉にも戦車のような頑丈な車は被災地を回る車となりました。先生はあの車が壊れる時は死ぬよりない状況とおっしゃり、あの車より被災地を回る車はないとおっしゃって下さったので、私は万全に整備し、道も何もなくなった道なき道を走れました。宮古にての炊き出しに同行してくれた仲間とマクドナルドで休憩した時に、吹いた風から感じた過去の縁、未来の縁に人生の不思議さを感じていました。まさかこのような事で再び宮古の地に来るとは信じがたい事と感じました。宮古は先生の奥様が高校の時に住んでおられた地なのです。どこにお住まいかは知ることはないのに、その地に立った時に知らないはずの地名を口走っていたことには自分自身驚きました。



2011年 東日本大震災被災地にて

盛岡に拠点となる NPO 高麗東北センターを作った時、何故岩手県なのかを随分考えました。きっかけは東北センターから見える駒ヶ岳です。その後導かれる地は KOMA がつくのです。日本で KOMA がつく地名が一番多い県は岩手県と知ったのは東北センターを作った後でした。さらに東北センターを作るきっかけになった地は近江商人がわらじを脱いだ地と記された石碑が立つ場所でした。宮古に炊き出しに行った翌日、盛岡でのチャリティーコンサートの動員の為に車を走らせていた時、川辺に桜並木と柳の新芽が輝く光景に魅せられ、車を降り、川辺に立ちました。ここに拠点を作ると本音が生まれ、私は思わず生まれた本音を引っ込め、蓋までしたのです。が、生まれた本音は引っ込めることはできず、実現に向かい動き始めました。近江商人の縁でこの地に拠点を作ることになったのです。ある時のアントレプレヌールサロンにて先生から近江商人の「三方良し」のお話をお聞きしました。私の動きのようだとお聞きしていました。後で調べた時、高句麗系近江商人と検索の結果に出てきた時、胸が飛び出るほど驚きました。その後はどんなに調べても再び見る事ができませんでしたが、ある時の京都でのコンサートの時にボランティアの方がお連れになった方は高句麗姓の近江商人でした。由来も歴史も詳しい方で私に歴史の本のコピーまで送って下さいました。

また、何度も岩手県での「高句麗伝説」にて詩に詠ませて戴いていますが、被災地に行く時、交通事故により通行止めになった時に生まれて初めて通る一般道にて、突然懐かしい香りに胸動き、涙こみ上げました。何が起こったのかと考えると同時に「ここはどこ」とあたりを見回しました。「KOMA」の文字が見えました。ここは KOMA の地と受け止め、先祖が地名で残してくれたのだとふと感じたのです。まさか子孫が遠い未来にこの地を訪ねるとは想像すらしていません。後世に生きる人の為に地名を残してくれたのだと感じたのです。私も生きる事そのものが後世に印に残る事を自然としているのかもしれないと考えるようになりました。後日、この地を調べた時、この地は阿弭流為の里と書かれている文字に胸が飛び出る程驚きました。強い衝撃を受けました。それも朝廷から集中攻撃を受けた地と書かれていました。瞬間、意味はわからずともこのことを知らずに東北の復興も日本の未来も考えることはできないと悟ったのです。生きているうちに知る事ができて本当に生命拾いとを感じる真実との出会いです。人間とし、知らずに生きることはできない真実であることを生命でわかりました。「高句麗伝説」にて詩を詠む時、胸が引き裂かれんばかりに強い衝撃を受けます。涙なくして詠むことができません。多くの蝦夷の魂が蘇っていることを生命で感じる瞬間です。NPO 高麗東北センターのオープンの日のコンサートにてどこまでも澄んだ美しい水色の光を見ました。ここは澄んだ水色の光が見える地と感じていました。どこまでも澄んだ美しい水色の光は蝦夷の魂であると、ある時先生の演奏をお聴きし、わかりました。美しい魂が美しいままに生きていける世界を作っていける場合は、いただきしん先生のコンサートよりありません。先生がこの宇宙に存在するあらゆる存在と一体となり生まれる生命の音は新しい世界を創造します。先生が表現する世界こそは思い切り息ができる世界と毎回体験しています。自然と生命を縛り、犠牲にする世界は壊れゆきます。先生のコンサートは人類の未来を創造します。お席がある分だけはお参加頂きたいといつも切に願っています。人間の内面が取り巻く環境を作ります。コンサートにて内面が、過去から受け継いだ思いや愛を疎外する状態から解放され、愛に満ちれば、自ずと取り巻く環境は愛が実現する環境となります。良い社会を作るのは私達一人一人が愛に満ち、生

きることで作られるのです。かけがえのない人生であり尊い生命です。人類史上初めての愛の実現、世界の平和を実現するコンサートにあたり、心よりご参加頂けますことを願います。そして共に平和実現に向かいコンサートの尊い一席に多くの方々をお誘い頂けますようにご協力頂けましたら大変ありがたいです。

懐かしい宮古での写真から生まれるままに書かせて戴きました。秋の夜長にお読み頂けましたら幸いです。そして心よりコンサート開催意味をご理解頂き、何よりも最優先しご参加頂けますようお願い申し上げます。ありがとうございます。

高麗恵子



宮古にて